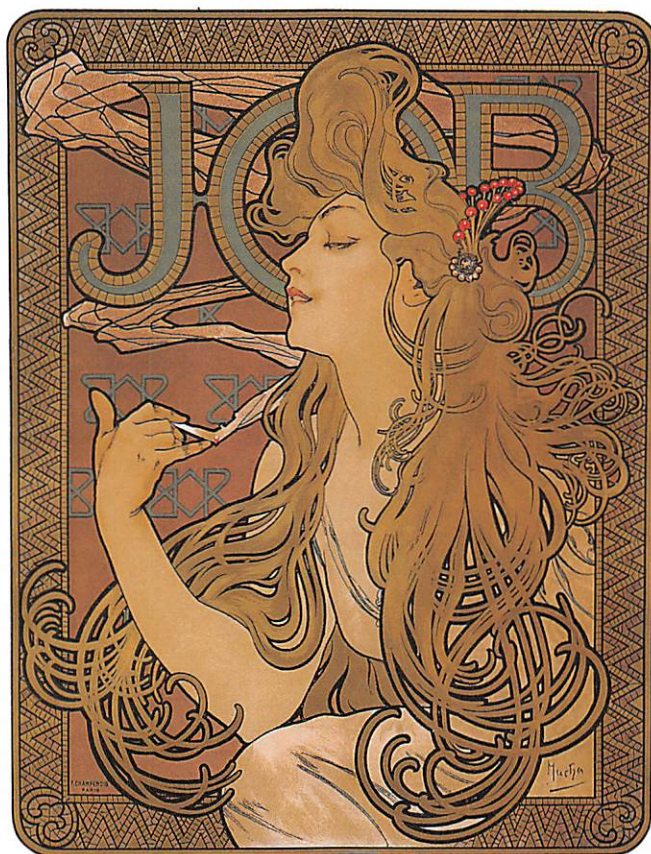


アルテピア

社団法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 電話011-644-4025



アルフォンス・マリア＝ミュシャ 「ジョブ(たばこ紙)」

1897年 リトグラフ、紙 51.5×39.3cm (北海道立帯広美術館蔵)

ミュシャは、19世紀末から今世紀初めにかけてパリを中心に花開いた装飾美術運動、アール・ヌーヴォーを代表する画家で、絵画ばかりでなくポスターや挿絵を描き、彫刻家でもあった。流れるような曲線と豊かな色彩による装飾的な表現は、そのままアール・ヌーヴォーの特徴を示しており、彼はそうした表現の優美な女性像でこの時代の寵児となった。とりわけ女優サラ・ベルナールの舞台講演のために制作した一連のポスターは彼の名を一躍有名にした代表作として知られている。

この作品は、ジョブ社製のたばこの巻き紙のために

制作された宣伝用のポスターである。紫色の地を背景にJOBの文字と幾何学的に図案化された商標が配され、モザイク調の縁模様とあいまって、装飾的な効果を高めている。また、つる草がからまるような髪の写真や様式化された煙の表現などにも、ミュシャの卓越した装飾感覚と洗練された美意識がうかがわれる。

うっとりとするような女性の表情と「ミュシャのマカロニ」と呼ばれた髪表現は、この後の彼のポスターにしばしば見られるようになる。このポスターはその先駆けとなるもので、非常に人気を博し、幾つかの異版が刷られた。

釧路・根室圏に新しい芸術文化の拠点

道立釧路芸術館

・・・釧路湿原など貴重な自然に恵まれた道東の中核都市の釧路市に、多彩な芸術活動の拠点として道立の「芸術館」が開館しました。この新設に伴い当協会会員証の利用について協議してありましたところ、本年4月から同館主催の「美術展」に限定で観覧できることになりました。この機会に概要を紹介することになり、同館からご寄稿頂いて掲載しましたので参考にされ、道東にお出かけのときには是非ご観覧ください・・・



北海道立釧路芸術館 全景

● 釧路芸術館は、自然をテーマとするすぐれた美術作品や写真等の映像作品、国内外の音楽・演劇などの多様な鑑賞機会を提供する芸術活動の展開のため、釧路・根室圏の新しい芸術文化活動の拠点施設として建設されることになり、平成一〇年三月二五日完成。同年一〇月二四日開館しました。

● 場所は、JR根室本線釧路駅から南へ徒歩で約一五分、釧路市の中心部にある幣舞橋のたもとを流れる旧釧路川に面し、釧路市のフィッシュヤーマンズワーフ構想の一角、釧路市国際交流センターに隣接しています。

● 館の管理運営は、「地域に根ざした運営」の観点から「公設民営」で「住民参加型施設」の特性を生かすために、財団法人釧路市民文化振興

財団」に委託、次の事項を重点に特色ある運営を図っています。

一 自然とかわる美術作品、写真等の映像作品、釧路・根室地域と関連する各分野のすぐれた作品を、教育的・美術史的観点に立って系統的に収集する。

二 国内外のすぐれた作品による、多彩なテーマの特別展を実施する。

また、芸術館の収蔵作品の紹介を中心とする所蔵品展を、他の道立美術館との連携の下に実施する。

三 主として釧路・根室地域の作家や作品、収集分野、博物館活動等についての専門的調査を行う。

四 コンサート・映画会等の芸術鑑賞事業や、講演会・講座・図書閲覧等の教育普及活動及び情報提供等の事業を推進し、地域の芸術文化の振興を図る。

● 施設の概要ですが、建物の南側は、ガラス面を大きくとり、釧路・根室圏らしい雄大さと伸びやかさをイメージしています。また、北側の街並みに沿ったもう一面は、かつてこの地区が釧路の港湾中心部のレンガ倉庫群であったことから、レンガ壁を採用し、将来の明るさと歴史性をイメージさせるデザインになっています。

● 建物の特色としては、豊富な日照

協力会員証利用美術館概要

● 道立近代美術館

(札幌市中央区北一条西十七丁目)

・一九七七年(昭五二年)開館。国内外の各作品を紹介する特別展。北海道ゆかりの作家の作品を中心に、日本近代・海外の作品を系統的に収集・展示。特に、バスキンとエコー・ド・パリの作品や近・現代のガラス工芸作品の収集・展示は国内外から注目されている。

・道内移動美術展を毎年度五市町村実施。美術講座や講演会・映画会等開催。

● 道立三岸好太郎美術館

(札幌市中央区北二条西十五丁目)

・一九六七年(昭四二年)三岸家より遺作二〇点余の寄贈を受け、道立美術館(三岸好太郎記念室)として開館。一九八三年(昭五八年)現在地に新館建設。近代日本美術界で重要な役割を果たし、夢と抒情の息づく三岸芸術の作品を常時展示している。

・美術館コンサート、ミニリサイタル、たんけん美術館等開催。

● 道立旭川美術館

(旭川市常盤公園内)

・一九八二年(昭五七年)開館。道北ゆかりの作家の作品や木の造形作品を重点に収集・展示。またこの方針に関連する国内外の名作品の企画展等を開催している。

・美術講演会、ミュージックシアター等開催。

を生かした広いガラスの面、随所に設けられた開放的なテラスなど、ゆとりと解放感があふれる館内は周囲の環境に溶け込んでいます。一階のロビーは、ガラス面から陽光が降り注ぎ解放感のある空間になっており、展示室は、白塗煉瓦の壁、白木の床、円柱を配した約七〇〇㎡の展示空間で、さまざまな展覧会が開催できます。

ミュージアムコンサートや映像フェスティバル、講演会など多様に利用できます。フリーアートルーム(多機能室)は、一一五㎡の空間で、小企画展やセミナー等様々な事業に活用できます。その他、図録や絵葉書などの販売をとおしてサービスを提供するミュージアムショップコーナーがあります。

アートホール(講堂)は、約二〇〇席(固定席一二五・可動席七六席)の多目的ホールで、ピアノ・ワイドスクリーン・調光装置等を設備し、

●二階は、オープンテラスになっており、屋外は自由に通過できる階段通路、屋内は美術・芸術関係の図書雑誌、閲覧用コンピュータなどによる芸術情報の提供の場としての閲覧コーナーがあり、更に芸術鑑賞の余韻を深めくつろぎのひとときが味わえる喫茶コーナーがあります。

心豊かな未来の為に

北海道立釧路芸術館長 荒谷 宏



阿寒連峰に守られ、洋々とした海に臨む街釧路に道立芸術館が建ち、活動を始めたのは昨年十月二十三日の事だった。地域住民の熱意、努力によって作り上げられた住民の為の館。気安く訪れ、芸術一般について知りたかったことを調べる為に、優秀なスタッフも揃っている。現代機器を利用してほしい。優秀なスタッフも揃っている。次々と開催される展覧会、講演会、音楽会、映画上映などに足を運ぶことにより、芸術に対する関心度が高まれば嬉しい限りである。又、自分を発見する場、創る喜びを教えてくれるフリーアートルームもある。子供も大人も交友の輪が広がるし、未来が明るくなるに違いない。我々一人ひとりの共有財産である芸術館を気楽に活用してほしい。

●主な事業は、次の項目内容で、すぐれた芸術作品や芸術活動を紹介し、北国の個性的な文化の形成をめざす活動を展開します。一、すぐれた作品の収集・保存

自然をテーマと

する美術作品、写真などの映像作品 釧路・根室地域と関連する作品などを系統的に収集し、特色あるコレクションづくりをめざします。

二 多彩な展覧会の実施

国内外のすぐれた美術作品を様々なテーマで紹介する特別展や、当館のコレクションを中心とした企画性ある所蔵品展など幅広い展示を実施します。

三 多彩な芸術との出会い

ミュージアムコンサートや映画の上映のほか、芸術と関連する講演会やユニークなテーマのセミナーなど、親しみやすい普及活動を実施します。また、多種多様な芸術文化の情報を提供するコーナーを開設します。

●ボランティア活動

当館の開館と相まって釧路芸術館ボランティアの会(SOA)が発足、資料整理、広報、喫茶、販売四部門の組織で約一三〇名の会員が活動しています。

●以上のとおり、概要を紹介しましたが、アルテピア会員の皆さんには、当館の多彩な芸術活動を是非ご覧頂きたくお待ちしております。

(釧路芸術館職員一同)

●道立函館美術館

(函館市五稜郭町三七の六)

・一九八八年(昭六一年)開館。道南ゆかりの作家の作品や書家の作品を収集・展示。ロダン、ブールデル、ルノアール等の西洋近代作品や国内作家の名品を収集・展示している。
・美術鑑賞講座、コンサート、映画会等実施。

●道立帯広美術館

(帯広市緑ヶ丘二番地緑ヶ丘公園内)

・一九九一年(平三年)開館。道東ゆかりの代表的作家の作品、近代の版画やポスターを中心としたプリントアート、バルビゾン派の絵画等の特色ある作品を収集・展示。
・キッズミュージアム、美術講演会等開催。

●札幌芸術の森美術館

(札幌市芸術の森二丁目)

・一九八六年(昭六一年)開館。現代を代表する彫刻作家の作品を野外に展示している野外美術館と一九九〇年(平成二年)に竣工した屋内の美術館からなる。

・陶芸・木工・ガラス工房・音楽や舞台の練習ホール等併設。

●札幌彫刻美術館

(札幌市中央区宮の森四条十二丁目)

・一九八一年(昭五六年)開館。札幌ゆかりの彫刻家である「本郷 新」を記念する美術館として、彫刻・油絵等の作品のほか、本人が収集した他作家の作品を収蔵・展示している。
・彫刻庭園が併設されており、野外彫刻も鑑賞できる。

「ルノワール展」を担当して

北海道立近代美術館で開催中の「ルノワール展」は、三年以上の長い準備期間を経て実現しました。その間、学芸員はじめ展覧会担当者は何度も企画会議を重ね、国内はもとより海外の美術館や所蔵家のもとへ出品交渉に行き、一喜一憂を繰り返しながら準備を進めてきたのです。

これは、この種の規模の大きな海外展では珍しいことではありませんが、ものがルノワールだけに交渉は予想以上に難航しました。今回の展覧会はルノワールの「近代性」や「都市生活者としてのまなざし」に焦点を合わせた企画ですが、日本国内には該当する作品が少ないのです。必然的に海外から作品を借りてこなければ展覧会が成り立たないのですが、館外持ち出しが禁止になっていたりと、常設展示に必要なことから出品を断られるケースも多々ありました。他の展覧会にすでに出品が決まっていた断念せざるをえない作品もあり、ルノワールの人気の高さ、重要性をあらためて実感させられました。それでも最

終的に海外の十三の美術館から三二点を借りることができました。

こうして開催にこぎつけたものの作品の輸送方法に突如クレームがついたり、作品とともに多数のクーリエ（随行員）がやってきて対応に追われたりと最後まで気の抜けない展覧会ですが、充実した内容と自負しています。印象派以前の初期作品から暖かな色調の晩年の作品まで、ルノワールの画業全体を見据えながら、「近代の眼」をキーワードにテーマ性を持たせています。日本初公開の作品も多く、見ごたえは十分でしょう。ぜひ多くの方々にご覧いただきたいと思えます。

（近代美術館学芸員 富岡）



アンリオ夫人 1876年頃 ワシントン、
ナショナル・ギャラリー蔵

三岸節子画伯をしのぶ

去る四月十八日未明、三岸節子画伯が永眠されました。夫、三岸好太郎が昭和九年にわずか三十一歳の若さで亡くなった後、幼い三人の子供を抱え、さまざま困難に立ち向かいながら女流画家の草分けとして未踏の地を歩み続けた九十四年の生涯でした。

長い間手元を守り、時には自分の作品と交換して収集した好太郎の遺作二二〇点を北海道へ寄贈されたのは昭和四十二年のことでした。これをもとにして北海道立美術館（三岸

好太郎記念室）が発足、五十二年には北海道立三岸好太郎美術館と改称して新たにオープンしています。そして昨年十一月には愛知県の生家跡に尾西市立三岸節子記念美術館が開館。館内を回りながら節子氏は涙を流されたといえます。

この十月には両館はパートナー館の提携を結び、所蔵品の交換展を開催します。夫婦それぞれの生涯と画業を偲ぶ機会になればと念じています。

（三岸好太郎美術館学芸員 苫名）



—三岸節子画伯とお別れの会—

- 三岸節子画伯略歴
- 一九〇五 愛知県起町（現尾西市）生まれ
- 一九一四 女子美術学校卒業、好太郎と結婚
- 一九一四 好太郎と死別
- 一九一七 女流画家協会結成
- 一九二七 好太郎の遺作三〇点を北海道に寄贈
- 一九四〇 文化功労者として顕彰
- 一九八八 尾西市三岸節子記念美術館開館

MUSEUM CALENDAR

1999. 9月～2000. 3月

美術館の展覧会ご案内

	9	10	11	12	1	2	3
近代美術館	9/8～10/10 奥村土牛展		10/20～11/28 パサージュ フランスの 新しい美術	貸 館	12/22～1/30 A・MOSE・LAND. 2000 イツツ・アニマル・ ワールド	2/5～3/5 松島正幸展	貸 館
三岸好太郎	7/29～9/26 生きた・描いた・愛した 夭折の画家 の生涯	10/2～ 10/24 三岸好太郎・ 節子展 -前期-	10/30～ 11/21 三岸好太郎・ 節子展 -後期-	11/28～3/29 オーケストラをめぐって			
旭川	8/5～ 9/5 ポルトガル 栄光の500年展	9/18～10/24 ふるさとニッポン展	11/3～1/30 ふわふわ・ワンダーランド			2/5～3/20 旭川美術館 コレクション選	
函館	7/24～ 9/12 バスキン展	9/19～10/23 リバティ・ スタイル展	10/29～12/5 いま 現在に生きる 古典の書の展開	貸 館	1/7～3/26 函館美術館コレクション選		
帯広	8/6～9/15 リバティ・ スタイル展	9/22～11/10 20世紀静物画の展開	11/19～1/19 帯広美術館コレクション選集 -バルビゾン派・道東の美術-			1/28～3/29 永遠のポスター芸術	
釧路	9/3～10/17 アンセル・アダムスの世界	10/23～11/14 現代日本の グラフィック デザイン	11/20～1/30 南仏プロヴァンスの女神たち グラネ美術館展			2/5～3/29 釧路芸術館所蔵品展	
札幌彫刻	8/28～10/11 第9回本郷新受賞 記念彫刻展	10/16～4/2 平成11年度後期収蔵品展 -本郷新が求めた彫刻世界・海外旅行の思い出- (本館) (記念館)					
札幌芸術の森	8/28～10/10 クラフト全国公募'99	10/16～1/16 並河萬里写真展 神秘の形像・イスファハン			1/22～3/26 芸術の森美術館コレクション選		

道立近代美術館主催 平成11年度移動美術館

北海道立近代美術館所蔵品による

美へのいざない——パリに生きた画家たち

シャガール、パスキン、ローランサン…

標津町 平成11年9月9日(木)～9月13日(月)

斜里町 平成11年9月16日(木)～9月21日(火)

* 9月20日(月)は休館

中頓別町 平成11年9月24日(金)～9月28日(火)

小平町 平成11年10月1日(金)～10月5日(火)

深川市 平成11年10月8日(金)～10月12日(火)



平成10年度移動美術館の様子

入場無料

近代美術館

Passage: New French Art

十月二〇日(水)～十一月二八日(日)

「パサージュ (Passage)」は、パリによく見られる大通りの間をつなぐ小路、屋根付きの商店街のことです。これは私的な場所と公的な場所の中間に位置し、個人と社会の接点としてフランス特有の形ともいえます。一般には通過、通路といった意味で、そこから異なった状況を往来する小路、さらに二一世紀への移行などの意味合いも生れ、この概念がとりわけ六十年代以降、フランスの美術家たちに表現の拡大を促してきました。

本展はこの「パサージュ」をテーマにフランス美術の最新の動向を展覧するもの。素材として登場するのは、衣服や日用品や植物、また写真や印刷物やヴィデオなど、普段使用したり目にするものやメディア類で、それらが二人の参加作家の創意により新鮮なメッセージを發します。日常生活に根ざしながら社会に働きかけていこうとする多彩なアイディアの空間。そんな会場での行き来「パサージュ」をどうぞお楽しみください。



ソフィ・カガ/眠る人々 1979年 FNAC蔵 展示風景

三岸好太郎美術館

三岸節子画伯追悼

北海道立三岸好太郎美術館・

尾西市三岸節子記念美術館

パートナー館提携記念

三岸好太郎・三岸節子展

前期：蝶の幻想・異国の想い―風景画を中心に
一〇月二日(土)～一〇月二四日(日)
後期：憂愁の道化・情熱の花―人物・静物画を中心に
一〇月三〇日(土)～十一月二日(日)

我が国を代表する女流洋画家三岸節子の画業を顕彰する尾西市三岸節子記念美術館が、一九九八年一月に開館しました。これにより、すでに一九七七年に開館している北海道立三岸好太



三岸節子「小さな町 (アンダルシア)」

涯を終えられました。謹んでご冥福をお祈り申し上げるとともに、本展をその画業を偲ぶたいと存じます。

郎美術館とあわせ、日本では初めて夫婦それぞれの個人記念美術館が誕生したことになります。

本展は両館のパートナー館提携を記念して、双方の所蔵品による三岸好太郎・節子展を開催し、それぞれの美術館を広く紹介しようとするものです。展覧会の準備を進めていた矢先の去る四月一八日、三岸節子画伯が六十年の生涯を終えられました。

旭川美術館

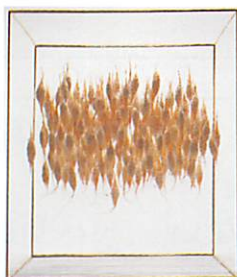
ふわふわ・ワンダーランド

十一月三日(水)～一月三十日(日)

柔らかさや軽やかさなどをイメージさせる、「ふわふわ」という言葉をキーワードに、さまざまな美術作品を紹介いたします。一般に、ふわふわとしたものは、温もりや心地よさなど、人間の感覚に密接にアプローチする独特の魅力をもっています。この展覧会では、布や綿などの柔らかな素材を用いた立体作品、大量のたんぼの綿毛によるインスタレーションなどはじめ、浮遊感を感じさせる絵画作品、鳥のモビールやテディベアまで、バラエティ豊かな

な「ふわふわ」アートの世界をごらんいただきます。また、会期中は、出品作家によるトークやワークショップなども予定されています。

多くの不安やストレスが渦巻く現代社会に生きる人々の間では、いま、「癒し」が切に求められています。この展覧会が、来場者の疲弊した心を癒すとともに、感覚を解放し、生命の温かさや力強さを感じとったり、想像力を豊かに飛躍させたい。生命のような経緯で生きる「生命」の場と願っています。



藤井 子「生命-記憶-豊かに飛躍させたい。生命のような経緯で生きる「生命」の場と願っています。」

函館美術館

英国のアール・ヌーヴオー

リバティ・スタイル展

九月一九日(日)～十月二三日(土)

「リバティ・プリント」と呼ばれるファブリックによって、日本でも広く知られているロンドンの百貨店、リバティ。創設者のアーサー・ラビンゼイ・リバティ (一八四三～一九一七) が、リージェント・ストリートに、東洋からの輸入工芸品を販売する「リバティ商会」を開いたのは一八七五年のことでした。輸入品ばかりではなくオリジナルの生活用品を手がけるに至って、この店の製品は大きな反響を呼びます。



アーチボルト・リックス「フィッシュ・サーバー」全貌をご覧ください。

アーチボルト・リックスなどリバティ社のデザイナーたちは、アーサーの指示のもと、日本美術やケルト美術などの特質を巧みに取り入れながら、新時代にふさわしいデザインを生み出し、イギリスにおけるアール・ヌーヴオーの一角を形成するのです。今回の展覧会では、リバティが生み出した家具や陶磁器、銀器、ジュエリーなど約三六〇点を展示し、「リバティスタイル」の全貌をご覧ください。

帯広美術館

ピカソ、ブラック、ボナール、ルオー、ベン・シャーン…

二〇世紀静物画の展開

九月二日(水)～十一月一日(水)

静物画は、一七世紀以後多くの画家たちが個性的な表現を試みた絵画の一分野です。画家は身近にある卓上の器や果物、花束などを題材にそれらがもつ質感や量感、色合いなどをとらえ、それぞれの表現様式によって描き出します。キュビズムやフォーヴィスム、表現主義など、新しい美術思潮が次々と登場した二〇世紀においては、静物画は画家たちのスタイルを見比べる格好のジャンルといえるでしょう。本展では、絵画のイメージを革新し



アンリ・ルソー 「ピンクのろうそく」1905～08年

たピカソやブラックら今世紀を代表する画家たちの作品によって、二〇世紀前半のヨーロッパ絵画の多彩な展開を紹介します。また、あわせてヨーロッパで模索された新しい表現を吸収しながら独自の表現を生み出したアメリカの絵画の系譜をたどります。ワシントンのフィリップス・コレクシヨンの所蔵作品から選りすぐった欧米の画家たち四五作家七

三点の静物画によって、幅広い領域で様々な様式と試みが繰り広げられた二〇世紀絵画の流れをご覧ください。

釧路美術館

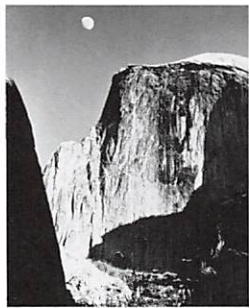
二〇世紀写真芸術の巨匠

アンセル・アダムスの世界

— 大自然の交響楽 —

九月三日(金)～一〇月一七日(日)

アンセン・アダムス(一九〇二—八四)は二〇世紀を代表する写真家のひとりです。アメリカ各地の大自然をモチーフに、雄大な構図と繊細克明な描写による彼の作品は、すぐれた芸術表現として多くの人々に感銘を与えています。彼はまた、光の微妙なトーンを的確にコントロールする技法「ゾーン・システム」を考案したことで知られ



「月とハーフドーム」ヨセミテ国立公園、カリフォルニア州 1960年

の代表的作品を通じて紹介いたします。

ています。作家活動の他にも、写真に関する教育普及機関や美術館写真部門の設立に尽力するなど、芸術としての写真の普及に大きく貢献しました。写真家として、また教育者として、人間と自然に深く理解を寄せた思想家として、写真に関わる幅広い活動を続けたアンセル・アダムスの世界を、アメリカ西部の雄大な風景や親交のあった芸術家のポートレートなど一一五点

芸術の森美術館

なみかわはんり
並河萬里写真展

神秘の形象 イスファハン

— 沙漠の青い静寂 —

十月十六日(土)～翌年一月十六日(日)

イラン中央に位置する古都イスファハン。古くからシルクロードの要衝として栄えたこの街は、一六世紀末、サファビー王朝時代に首都が置かれたことでイスタンブールやバグダットをしるぐ中近東随一の都として栄華を極めました。それは、「ここを見なければ世界の半分を見ていないに等しい」とうたわれたほどです。世界文化遺産と



金曜日のモスク ミヒラブへの入口

の写真パネルによって、この街の魅力を紹介するものでもあります。

なっている「イマーム広場」を取り囲むモスクや宮殿など当時の輝きを今に伝える建造物群は、彩釉タイルによる唐草模様や幾何学紋様、イスラム文字で壁画が覆い尽くされ、神秘的で幻想的な世界をつくり出しています。シルクロードを中心に世界各地の遺跡を長年撮り続ける写真家並河萬里はイスファハンに魅了され、一九五六年以来数回にわたって取材しています。本展では、彼が撮影した約百枚の大型

札幌彫刻美術館

第九回本郷新賞受賞記念

井上 武吉彫刻展

八月二八日(土)～十月二一日(日)

「本郷 新賞」は戦後日本野外彫刻の第一人者として活躍し、一九八〇年七十四歳でなくなった本郷 新の偉業を称えて、一九八三年に創設したものです。一九八三年を第一回として隔年ごとに実施し、あわせて受賞記念展を開催してきました。

今回は、一九九七年から九八年までに日本全国の公共空間に制作設置された作品を選考対象としました。厳正な



my sky hole '97-2 水面への回廊、琵琶湖

さらに、初期から晩年までの軌跡を二十点あまりの作品を通して故人となった作家の真髓に迫ります。

審査の結果、「第九回本郷 新賞」は、大津港シンボル緑地公園に設置された井上武吉制作の「my sky hole 97-2 水面への回廊、琵琶湖」に決定しました。受賞記念展では、受賞作の全容を模型や図面、写真パネルで紹介いたします。

ESSAY

日頃から、美術に親しみ大いに楽しんでおられる会員の方に、思いをつづっていただきました。

また、学芸員の方には、今回シルクロードに関連したESSAYを寄せていただきました。

これからも皆さまのお便りをお寄せください。お待ちしております。

シルクロードを渡ったスパイス



五十嵐聡美

名前がイガラシなので、子どもの頃、よくトウガラシと呼ばれた。だから今でも唐辛子には愛着があって、他人の気がしない。

それはそれとして、唐の辛子というからには、遣唐使が唐朝の都・長安から運んだかと思えば、原産は南アメリカ熱帯地域で、南蛮人が渡来した六世紀に伝わったものという。確かに唐辛子を南蛮と呼ぶではな

いか。さらに地方によっては、唐辛子をナンバンゴショウとか、コショウと呼ぶところがあるそう。渡来当初、唐辛子を胡椒の一種と考えたらしい。つまり胡椒の方が、日本に入ったのは古いのである。

調べてみると、なんと奈良時代の正倉院文書に薬の一種として、その名前が登場していた。胡椒こそ遣唐使が運んだものかもしれない。

原産地のインドから、西域の胡国を経て中国、そして日本へ。ああ、シルクロードを渡ったスパイスは、胡椒であった。私の親戚、唐辛子ではなかった。(近代美術館学芸員)

ざわめきの中



加来ミチル

今日は久し降りに逢う妹と展覧会場巡りの楽しみの日。始めの会場で叔母とバツタリ(彼女七七才、油絵)再会を喜び合って次の友達の陶芸個展へ、数多く並んだ力作を敬意をもって観賞し次の公募展会場へ、又又親戚の人(七五才、織物)に会い姪が織物工芸で出展しているとのこと、あふれる程の出展作品の中、注意深く会場巡りをして見つけました。そ

の間壁、床あちこちの作品からたえずざわめきが聞こえて来ます。何かなア? この絵は御近所の方、あの陶芸は知人でと、本当に多くの方が凌ぎ合っただけの参加。うらやましいかぎりです。会場を見廻せば、身内か、グループ内の出展が有るのか、身振りことばの端から感じられ、会場は、作品、来場者のざわめきで一杯。私は、その声なき声の中で立ちつくすのみ。

美術が身近にはなりませんが、美術館や展覧会を巡り観ても、私に出来ることがここまでと云うのは、本当に困ったことです。

私の図録索引



原 舜吾

退職して既に十年ですが、絵を見ることが本当に好きでよかったと思っています。在職中も出張先などで多少無理をしても美術館を訪ね、夜は音楽会へ通うことが苦にならず、その楽しみが今も続いています。

昨年来、数は少ないのですが、手許にある「図録」の整理を思いつき、先ず所持する図録を年度別に分類。ノートを用意し一頁を二分して一

連番号を入れ、このノートに図録の古いものから順次次の事項を記入。展覧会のタイトル、開催時期、会場、主催者名、展示総点数、印象に残った五・六点の作品名などです。記入の終わった図録は、表紙に一連番号のシールを貼り、年度別に纏めて表示を付し書棚に収納。かくして私のささやかな「図録総索引」が完成。必要な図録が即座に取り出せるようになったのです。改めて一冊毎丁寧に図録を見直すことにより、再びその日の感動が甦り、新たな発見に驚き、絵を見る楽しさがより一層深まる想いのする今日この頃なのです。

〇〇〇事務局だより〇〇〇

平成十一年度
通常総会
開かれる

去る六月二日道立近代美術館講堂において総会が開かれ、平成一〇年度の事業報告、収支決算ならびに平成一一年度の事業計画、収支予算がそれぞれ原案どおり承認可決となりましたが、平成一〇年度にかかわる監査報告で、「当法人の明年度以降における財政運営事情を考慮するに、当法人の健全な財政運営を保持するため、長期展望に立ち早期に対策を講ずる必要がある。」との監査意見があり、議長（会長）から、理事会としても「運営検討委員会」を設置し検討するとの説明があり、了解されました。

その他に、会員の資格喪失（会費を2年分

(表1) 平成10年度収支決算総括表 (平成10年4月1日から平成11年3月31日まで)

(単位:円)

収 入 の 部				支 出 の 部					
科 目	合 計	一般会計	特 別 会 計		科 目	合 計	一般会計	特 別 会 計	
			売店会計	駐車場会計				売店会計	駐車場会計
基本財産運用収入	18,000	18,000	0	0	事業費	56,874,008	14,088,415	25,376,728	17,408,865
会費収入	15,329,000	15,329,000	0	0	管理費	6,618,859	6,618,859	0	0
事業収入	45,929,325	1,719,000	26,043,753	18,166,572	特定預金支出	137,648	137,648	0	0
寄付金収入	36,404	36,404	0	0	繰入金支出	2,000,000	0	0	2,000,000
繰越金収入	2,000,000	2,000,000	0	0	予備費	0	0	0	0
特別収入	7,101,244	7,101,244	0	0	当期支出合計	65,630,515	20,844,922	25,376,728	19,408,865
雑収入	61,722	45,438	7,000	9,284	当期収支差額	4,845,180	5,404,164	674,025	△1,233,009
当期収入合計	70,475,695	26,249,086	26,050,753	18,175,856	次期繰越収支差額	27,392,743	6,538,558	16,515,561	4,338,624
前期繰越収支差額	22,547,563	1,134,394	15,841,536	5,571,633	支出合計(B)	93,023,258	27,383,480	41,892,289	23,747,489
収入合計(B)	93,023,258	27,383,480	41,892,289	23,747,489	予算額(A)	88,791,000	20,965,000	45,848,000	21,978,000
予算額(A)	88,791,000	20,965,000	45,848,000	21,978,000	差異(A-B)	△4,232,258	△6,418,480	3,955,711	△1,769,489
差異(A-B)	△4,232,258	△6,418,480	3,955,711	△1,769,489					

(表2) 平成11年度収支予算総括表 (平成11年4月1日から平成12年度2年3月31日まで)

(単位:千円)

区 分	収 入 の 部				支 出 の 部					
	科 目	予算額	前年度予算額	差異	備 考	科 目	予算額	前年度予算額	差異	備 考
一 般 会 社	基本財産運用収入	18	60	△42	定期預金利息	事業費	(15,505)	(13,765)	(1,740)	
	会費収入	15,600	16,120	△520	法人・個人会員等年会費	美術活動協力事業費	13,660	12,150	1,510	V活動委員会・管内審議会・会員展覧等経費
	事業収入	1,370	1,500	△130	美術講座受講料・ついで会費等	美術講座等開催事業費	765	940	△175	美術展覧資料作成費・ついで経費等
	寄付金収入	10	10	0		美術研修視察事業費	275	270	5	コネクター経費等
	繰入金収入	3,000	2,005	995	駐車場会計から繰入	美術優秀検索顕彰事業	805	405	400	協賛会員の進呈経費(海外旅行協賛経費等)
	特別収入	100	100	0	美術振興基金利息	管理費	7,459	6,980	479	運営管理経費
	雑収入	30	40	△10	普通預金利息	特定預金支出	100	0	100	美術振興基金設立預金支出
						予備費	150	150	0	
	当期収入合計	20,128	19,835	293		当期支出合計	23,214	20,895	2,319	
	前期繰越収支差額	6,530	1,130	5,400		当期収支差額	△3,086	△1,060	△2,026	
収入合計	26,658	20,965	5,693		次期繰越収支差額	3,444	70	3,374		
特別 売店	売上収入等	30,006	30,008	△2	売上収入	事業費等	30,930	30,027	903	仕入、賃金、施設賃借料等
	前期繰越収支差額	16,500	15,840	660		次期繰越収支差額	15,576	15,821	△245	
	収入合計	46,506	45,848	658		合計	46,506	45,848	658	
会計 駐車場	駐車料金収入	18,509	16,408	2,101	駐車場使用料収入	事業費等	19,917	19,891	26	管理委託料、土地借上料等
	前期繰越収支差額	4,300	5,570	△1,270		次期繰越収支差額	2,892	2,087	805	
	収入合計	22,809	21,978	831		合計	22,809	21,978	831	
総 合 計		95,973	88,791	7,182		総合計	95,973	88,791	7,182	

以上納入しないときは除名とする。

該当者、法人会員二件、個人会員九一件)並びに、役員の退任(谷貴子理事)についても承認可決されました。

なお、退任の谷理事には、会長から特に「当会創立準備の段階から参画し、設立後今日まで理事として多大な貢献があった」と感謝状が手渡されました。

ここで、平成一〇年度の事業報告、収支決算並びに平成十一年度の事業計画、収支予算についての概要を次に報告します。

平成十一年度一〇年度の事業報告は、会報第三号で「事業計画」としてお知らせしたとおり実施することができました。収支決算については(表1)のとおりです。

会員数については、法人、個人会員合計で、二七九人、前年比八〇人の増でした。

平成十一年度の事業は、次の事業を計画しております。

一 道立美術館の事業活動に対するボランティアの協力

(常設展の解説・資料整理等)

二 道立美術館等の事業活動に対する援助協力(今年度から廃止)

(当会との共催事業にかかる負担

金援助)

三 美術館観覧拡大への協力(今年度から釧路芸術館を加える)

(会員証利用にかかる八館への観覧料の負担)

四 美術館普及活動への協力

(会報・ポスター配布、展覧会案内送付等の広報活動及び館外での美術館普及活動)

五 美術講座の実施

(四月から九月まで六講座)

六 「つどい'99」の実施

(通常総会の終了後開催)

七 「楽しい青空教室PARK」の実施

(対象 小学生)

八 美術研修旅行の企画・実施

九 図録・絵はがき等の作成・販売

一〇 「美術館協力会賞」の贈呈

(学生美術全道展への後援と賞の贈呈及び副賞として海外美術研修旅行に招待)

一一 会員の拡大

一二 売店・駐車場の経営

収支予算については、(表2)のとおりです。

なお、紙面の都合で表2には表わすことができませんが、特に注目すべきものとしては、支出の部の一般会計の事業費中、美術館活動協力事

業費の「観覧料」は前年予算比三〇万円増としたこと。これは会員証利用者の一〇年度実績分と、また一一年度の特別展の内容を考慮して増を見込んだためですが、このような支出の増額は全体の財政運営を圧迫することになるため、同事業費の関係美術館への「共催負担金」一四〇万円は今年度から廃止をしたことなどです。

理事會開催

平成十一年度第一回理事会を六月二日道立近代美術館三階会議室で開催。次の事項が審議され、総会に提案されました。

・平成十年度事業・収支決算報告について

・平成十一年度事業計画案及び収支予算案について

・会員の資格喪失について

・役員(谷理事)の退任について

・協力会運営検討委員会設置要項について

尚、運営検討委員会設置に関連し、事業活動のさらなる円滑な運営を図るため、売店業務・美術研修旅行業務・館外普及活動事業の三グループを理事が分担し、相談・助言に当たることを申し合わせました。

。。「つどい」参加して。。

六月二日(水)通常総会終了後、講演とパーティのプログラムで、「つどい'99」が開催されました。

講演は、当協力会武井会長の「美術と経済発展」の演題で「美術は貴族社会で発展し、やがて一般化し、経済の発展につながってきた」等、年代と事例をあげながら、そしてユーモアを交えての内容で「美に感動し、明日への活力にしよう」と結ばれ、出席者の大きな拍手の中の感銘深いお話でした。

つづいて、一階ロビーで「パーティ」が開かれ、作家や近美の方々そして一三〇余名参加の会員皆さんが、ワイングラスをかたむけながら、終始和やかに親睦・交流を深め楽しい一刻を過ごしていましたが、有意義で盛会裡の「つどい」でした。



つどい'99

美へのかけ橋

アルテピア会員募集

私たちが好きな絵を

来館者の声

シルクロードの煌めき展をみて

金縷玉衣のすばらしさもさることながら数ある装身具の中で、耳飾りの事が印象に残っている。重量感あふれるものだが、形状からいって、現代のピアスと同じ使い方に違いないと思うと妙に親近感を覚えてしまった。 平間千津子 6/13来館

～1977年設立主旨～

ルノワール展をみて

小さなこども達と毎日接する仕事をしているが、ルノワールの絵を見ていると、こども達の澄んだ目、澄んだ心が素直に伝わってくるような気がします。 畑 久美子 7/21来館

(会員申込み 札幌市中央区北2条西17丁目 電話 011-644-4025)



近代美術館売店商品

◎協力会の定款・経営・経費（会費・観覧料等）の見直し等の重要案件を検討するため、理事会に「運営検討委員会」が設置されましたが、当会が美術館に支払っている会員証利用者の観覧料がこの二・三年から急増し、会の財政に影響、これが検討委員会設置要因のひとつになっています。今後の検討結果を待つことになりませんが、何と申しても会員皆さんのご理解とご協力を頂かなければなりませんので、ご意見・ご提言等お寄せ下さるよう広報部一同お待ちしております。

編集 だより

◎釧路芸術館と
会員証利用につ
いて協議の結果
本年四月から
「美術展」に限

定で観覧できるようになりましたが、会員や関係の方々から同館紹介の要望などがありましたので、本年度等初発行の月号に、同館の寄稿をいただいで掲載しました。新設開館で多忙のなかでのご協力に感謝し、多彩な芸術が楽しめる同館の発展を心から祈念します。